

令和8年9月17日

九州地区青少年教育施設 所長 各位

九州地区青少年教育施設協議会

会 長 吉 村 剛（公印省略）

《佐賀県北山少年自然の家所長》

国立夜須高原青少年自然の家《担当施設》

所 長 栗 原 和 亮（公印省略）

令和8年度九州地区青少年教育施設協議会職員研修会の開催について（お知らせ）

時下 益々御清祥のこととお喜び申し上げます。

当協議会の運営につきましては、平素より御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記研修会を別添要項のとおり開催いたします。

つきましては、御多用中恐れ入りますが、貴施設職員の参加について、よろしくお取り計らい願います。

【本件連絡先】

国立夜須高原青少年自然の家 総務・管理係

TEL 0946-42-5814

FAX 0946-42-5880

E-mail yasu-soumu@niye.go.jp

令和8年度 九州地区青少年教育施設協議会職員研修会開催要項
(公立青少年教育施設向け)

1. 趣旨 少子高齢化やデジタル技術の高度化、グローバル化など青少年を取り巻く社会環境が変化する中、青少年教育施設職員として、青少年の自立に向けた新たな学びと多様な体験を創出・提供していくために今何ができるかを考え、協議するとともに、会員相互・施設間のネットワーク構築や新たな連携を図る。
2. 主催 九州地区青少年教育施設協議会（担当施設：国立夜須高原青少年自然の家）
3. 期日 令和8年12月10日(木)～11日(金)1泊2日
4. 会場 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家【集合】
(〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山 1103)
筑前町立大刀洗平和記念館
(〒838-0814 福岡県朝倉郡筑前町高田 2561-1)
5. 対象 九州地区青少年教育施設協議会加盟施設職員
6. 日程等
 - 【1日目 12月10日(木)】
 - 12:25 JR 原田駅迎え(希望者)
 - 13:00 受付
 - 13:30 開会行事
 - 13:45 基調講演(90分)
独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長 青木康太郎
「青少年を取り巻く環境と青少年教育施設に求められる新たな取組」(仮)
 - 15:30 分科会 (90分) 別紙参照
 - 17:15 オリエンテーション
 - 17:30 入浴・休憩
 - 18:30 情報交換会
 - 【2日目 12月11日(金)】
 - 07:30 朝食・退所準備
 - 09:00 諸連絡
 - 09:30 「筑前町立大刀洗平和記念館」へ移動
 - 10:30 地域資源を活用した教育プログラム ～筑前町立大刀洗平和記念館～
 - 12:00 閉会式 ～閉会后、JR 原田駅まで送り(希望者)～

7. 参加費

7,500 円

(施設使用料 2,500 円、情報交換会3,860 円、朝食 640 円、平和記念館入場料 500 円)

8. 申し込み

右の二次元コードより、個人で申し込みください。

※各施設での「とりまとめ」は不要です。

※アレルギーをお持ちの方は別途「食前アレルギー確認表」を
yasu-soumu@niye.go.jp までご提出ください。

申込〆切 11月6日 12:00



9. 個人情報の取扱い

ご記入いただいた個人情報は、「独立行政法人国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切 な管理に関する規程」等に基づき適切に管理し、この事業に関する事務のみに使用し、法令等に定める場 合を除いて第三者に開示することはありません。

本事業で職員等が撮影した写真や映像、制作物、感想文等の著作物を当機構の広報等に使用する目的で、報告書や刊行物、インターネット(ソーシャルメディアサービスを含む)等に掲載することがあります。また、新聞社、雑誌社等が発行する刊行物やインターネット(以下、「印刷物等」)に記事・写真を掲載することもあります。なお、当機構がインターネット上に公開した肖像及び著作物について、本人から削除依頼を受けた場合は速やかに削除します。

ただし、機構発行の印刷物並びに機構以外の者が発行・運営する印刷物等については対応できかねますのでご了承ください。

10. その他

- ・宿泊に必要な「アメニティ」の備え付けはありませんので、ご持参ください。
- ・スーツやジャケット等の着用は必要ありません。暖かく動きやすい服装で参加ください。
- ・閉会式は筑前町立大刀洗平和記念館で行います。

【本件連絡先】

国立夜須高原青少年自然の家 総務・管理係

TEL 0946-42-5814

E-mail yasu-soumu@niye.go.jp

別紙 分科会のご案内

分科会では、各国立施設が取り組む先駆的事業を題材に、実践事例や課題を共有しながら、今後の取組につながるヒントを探します。

申込の際に、**希望される分科会を第3希望まで選択してください。**

※場合によってはご希望以外の分科会に参加いただく場合があります。

① リアル体験におけるデジタル技術を活用した深い学びにつながる教育プログラム等の開発

話題提供：国立諫早青少年自然の家

こんな分科会です

- ・体験活動にAR等のデジタル技術を活用した探究的な取組を導入し、情報の収集、比較・対話、ふりかえりの機会を設定することで情報活用能力の育成を目指します。
- ・教育プログラム等を開発・普及し、主体的に課題解決を図ることのできる青少年の育成につなげます。

ここがポイントです

- ・アプリ開発自体を目的とせず、指導方法・ふりかえり・評価まで含めた「パッケージプログラム」として開発します。
- ・連携先のニーズに応じたアプリの再構築や研修会の実施など、伴走型の支援も行います。
- ・実際の自然体験とデジタル技術を結び付け、利用者ニーズをもとに継続的に改良・再構築します。

こんな話をする予定です

- ・沢登り＋河川環境教育の事前学習としてのシミュレーション体験アプリ。
- ・地域の防災・減災を入口としたクイズラリー型アプリ、木育＋実体験ラリー型アプリ。
- ・自然体験にデジタル技術を取り入れる意義と課題。
- ・大学等との連携によるデータ収集・分析や、自治体・国・民間の専門機関との協働、有料プログラム・機器レンタルの可能性。

② 在留外国人 青少年、就労者等 との交流を通した多文化共生・異文化理解プログラムの開発

話題提供：国立阿蘇青少年交流の家

こんな分科会です

- ・災害の多い日本では、在留外国人への防災支援が重要です。言語や文化の壁を越え、誰一人取り残されない地域づくりを目指します。
- ・外国人住民が避難訓練や防災調理等に参加し、地域の一員として関係を築く「多文化共生防災プログラム」を開発します。

ここがポイントです

- ・外国人住民を防災支援の「受け手」だけでなく、地域防災を担う「主体」として位置付けます。
- ・防災への意識と異文化理解を高め、多文化共生につながる教育プログラムとして構成します。
- ・熊本市国際交流振興事業団、阿蘇市危機管理・防災担当、大学等、新たな連携先を開拓します。
- ・大隅・夜須高原等の連携施設とも知見を共有し、全国への普及につながる仕組みを検討します。

こんな話をする予定です

- ・防災知識、避難訓練、防災調理、外国人住民を対象としたHUG（避難所運営ゲーム）等の実施。
- ・支援団体、企業、自治体、大学等による運営委員会・ワーキンググループ。
- ・言語や文化的背景が異なる参加者への伝え方、難しい防災テーマを多文化理解につなげる方法。
- ・外国人住民を地域防災の担い手として地域に理解してもらう方法、受け入れ先・連携先、普及のあり方。

③ 特別な配慮を要する青少年を支援する新たな教育プログラム等の開発（不登校）

話題提供：国立大隅青少年自然の家

こんな分科会です

- ・学校に行きづらさを抱える子供たちと保護者の悩みやニーズに対応するため、関係機関と連携した地域型の教育プログラムを開発します。
- ・関係機関との支援方策・体制を構築し、子供たちの自立につなげることを目指します。

ここがポイントです

- ・宿泊型の体験活動を通して、基本的な生活習慣やコミュニケーション、協力する力を育みます。
- ・施設職員との信頼関係を基盤に、定期的な訪問型の体験活動など、継続的な関わりにつなげます。
- ・社会福祉法人、フリースクール等の多様な学びの場、市町村の福祉担当課等との連携を想定します。

こんな話をする予定です

- ・地域の食文化を生かした調理、チャレンジ活動、海・山での自然観察など、学校に行きづらい子供たちが取り組みやすい体験。
- ・体験活動を支える指導・支援方法や運営方法。
- ・参加しやすく、興味を持ちやすく、社会とのつながりを維持することにつながるプログラムとは何か。
- ・プログラム評価の考え方、「何をもって成果とするか」。職員研修のあり方。

④ 教育効果の高い自然体験活動の教育プログラム等の開発（海や川等）

話題提供：国立沖縄青少年交流の家

こんな分科会です

- ・海や川で安全に活動するために必要な知識・技能を、すべての子供たちが身に付けられる教育プログラムを開発します。
- ・国内外の実践や課題を踏まえ、教材・指導方法も開発し、学校体育の水泳領域ともつなげながら、日本の水辺の安全教育の実施・普及を目指します。

ここがポイントです

- ・学校の水泳指導に関する学習指導要領とのつながりを意識します。
- ・「泳げる」だけでなく「生き残る」ことまで視野に、日本の子供たち・教育環境に合った日本版「Swim and Survive」を検討します。
- ・宿泊型研修に限定せず、学校等へのアウトリーチ型プログラムとして普及のハードルを下げます。
- ・日本赤十字社や日本ライフセービング協会等で既に研修を受けた指導者の活用を想定します。

こんな話をする予定です

- ・なぜ水難事故は起こるのか、日本の水難事故にはどのような特徴があるのか。
- ・国内で水辺の安全教育に取り組む団体・機関と、今後の開発・普及上の課題。
- ・学校・地域・青少年教育施設をつなぐ実施体制。

⑤ 他者との対話や協働する力を育む教育的手法を活かした教育プログラム等の開発（アウトリーチ）

話題提供：国立夜須高原青少年自然の家

こんな分科会です

- ・「体験・対話・ふりかえり」を軸に、対話や協力を育む教育的手法を活かしたアウトリーチ型プログラムを開発します。
- ・学校・青少年団体・地域・企業など、幅広い対象のニーズに応じ、施設利用・利用者獲得にもつなげます。

ここがポイントです

- ・体験を提供するだけでなく、指導・ふりかえり・評価までを含めた「パッケージ」として考えます。
- ・企業研修や婚活イベントなど、新たな対象・ニーズにも目を向けます。
- ・行政や民間等が抱える社会的課題に対して、施設と連携先が「一緒につくる」仕組みを考えます。

こんな話をする予定です

- ・「仲間づくりプログラム」「チームづくりプログラム」等の実践例。（学校・官公庁・婚活イベント等）
- ・行政・民間との連携による新たなプログラムの可能性。
- ・効果的なプログラム、必要としている対象、新たな連携先、自施設で実施する際の課題。
- ・有料プログラムや旅費等を含めた実施のあり方、施設の要素を必要としないプログラムの可能性。

食物アレルギー事前確認表 【該当の方のみ:アレルギーが無い方は提出不要】

【※切:11/6(金)12:00】 ➡ 提出先: yasu-soumu@niye.go.jp

／ FAX 0946-42-5880

(ご記載いただいた本用紙を写真に撮って、画像ファイルとして送信も可)

1. 参加者情報

氏 名		
連 絡 先	電 話	
	メー ル	
ご利用期間		令和8年 12月 10日(木) ~ 11日(金)

2. 希望される対応 ※()に該当するものに○を付してください。

レストランでは調理・提供時のコンタミネーションの可能性がございます。ごく微量の摂取にて、アナフィラキシーショック等、重篤な症状を起こす可能性のある方は、万が一の事態を考慮し、【B:持ち込み対応】をいただきますよう、お願いします。上記の場合は、「食物アレルギー事前確認表」をご提出のうえ、事前にご相談ください。

対応方法、食物アレルギーについてのご相談は、下記窓口までご連絡ください。

コンパスグループ・ジャパン株式会社夜須高原店 (9:00~17:00)

TEL: 0946-42-5992 FAX: 0946-42-5994

E-mail: 35512@compass-jpn.com



当日のメニューアレルギーについては
こちらの二次元コードをご確認ください。

◆レストランでの食事(朝食)

()A:自己除去 ()B:持ち込み対応 ():C 代替食対応

3. アレルギーの詳細 ※()に詳細を記入、または、○を付してください。

◆アレルギー食材:()

◆アナフィラキシーショック等、重篤な症状を起こす可能性: (有り ・ 無し)

◆エピペン処方薬の所持: (有り ・ 無し)

別紙「食物アレルギーの対応について」を確認の上、同意します。

署名欄 令和 年 月 日 氏名: _____